

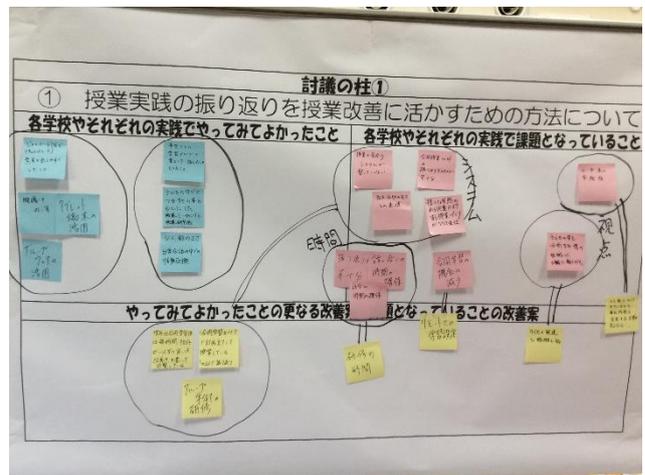
分科会 I - A (小学部 3 年 / 通学生) 記録抜粋

【 討議の柱① 授業実践の振り返りを授業改善に活かすための方法について 】

- 各学校やそれぞれの実践でやってみてよかったこと
 - ・ 单元ごとに学習グループで話し合いをもった。
 - ・ 子供の学びやつまずきの姿を元にした授業ミーティングや授業研究を行った。
 - ・ ジャムボード、ドキュメントシート、グループウェア (同時に入力できる) を活用する。
- 各学校やそれぞれの実践で課題となっていること
 - ・ 合同学習以外 (学級単位で行っている学習) の振り返りそのものが不十分である。
 - ・ 小中高の系統性をどうするか (生活单元学習等)。
 - ・ 子供の姿を分析する際の根拠が主観に頼りがち → 共通した視点が必要である。
- やってみてよかったことの更なる改善案, 課題となっていることの改善案
 - ・ 学年の合同学習後は毎時間、担任が一人ずつよい点や改善点を書いて回覧している。
 - ・ 月 1 回研修の時間を設定し、授業の振り返りと次に向けての改善について話し合いを行っている。
 - ・ 子供の発達を根拠として、子供の姿を分析し、授業の振り返りを行う。

【 討議の柱② 重度重複障害児が見通しをもち活動に取り組むための手立てについて 】

- 各学校やそれぞれの実践でやってみてよかったこと
 - ・ 個に応じた具体物, 具体的感覚の活用 (どのような状態であれば実感できるか), 教材制作。
 - ・ 支援者の位置・待ち時間・タイミング (二項・三項関係を築くために)。
 - ・ 学習の始まりと終わりの曲を固定して流す。
 - ・ 活動ごとの曲を子供がスイッチ操作で選ぶ。
 - ・ 苦手な活動の前に予告・練習を行う, 動く気持ちになるまで待つことも大事である。
 - ・ 同じことを繰り返し行う。表情や行動の変容が見られてきた頃に少し変化を加える。
- 各学校やそれぞれの実践で課題となっていること
 - ・ 健康状態や生活状況からの影響。
 - ・ 因果関係を形成することも大切だが, 実態に合っているか, 見立てが難しい。
 - ・ 実態が多様で, どこにねらい (目標) をおけばよいか。目標をどう示せばよいか。
- やってみてよかったことの更なる改善策, 課題となっていることの改善案
 - ・ 家庭や病棟との連携 (健康状況や生活状況について, 話し合いの時間の設定)。
 - ・ 目標を「～しよう」ばかりではなく, 「～するにはどうしたらよいか」として, 子供たち自身が考えられるようにすることは, 見通しをもつ上でも大事だと思う。



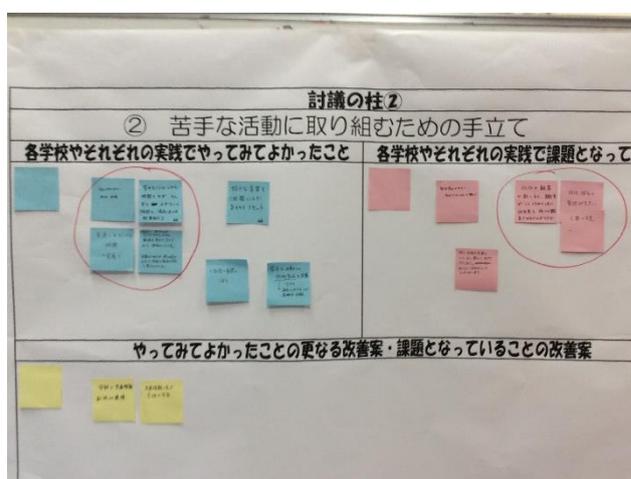
分科会 I - B (中学部 2 年/通学生) 記録抜粋

【 討議の柱① 授業実践の振り返りを授業改善に活かすための方法について 】

- 各学校やそれぞれの実践でやってみてよかったこと
 - ・ 一単位時間ごとに共通理解を図っている。
 - ・ 情報交換の際、改善策も話し合っている。
 - ・ 「授業づくりのスタンダード (シート)」を作成し、授業参観者が項目ごとに記入したシートを授業担当者へ伝える。
 - ・ 授業記録簿の回覧を行っている。
- 各学校やそれぞれの実践で課題となっていること
 - ・ 共通理解を図っても、次の授業に活かすことが少し難しい。
 - ・ 時間が足りない。
 - ・ クラス担任だけの振り返りになりがちである。
- やってみてよかったことの更なる改善案、課題となっていることの改善案
 - ・ 毎日の学習の様子を記録し、情報共有を図っている。
 - ・ 日頃から担当者間で日常的な情報共有を図っている。

【 討議の柱② 苦手な活動に取り組むための手立て 】

- 各学校やそれぞれの実践でやってみてよかったこと
 - ・ スモールステップで達成感をもたせ、成功体験を味わわせている。
 - ・ 苦手な活動については、伝え方などを工夫して対処している。
 - ・ 子供が落ち着かない場合は、言葉でしっかり伝え、落ち着ける決まった場所で過ごさせる。
 - ・ 好きな音楽を聞かせて、気持ちをリセットさせる。
- 各学校やそれぞれの実践で課題となっていること
 - ・ 離席する子供の対応をどうすべきか。
 - ・ 授業において同じことの繰り返しでは子供は飽きてくる(大切なことを定着させるには繰り返しの学習は必要である)。新しいものを取り入れる際のタイミングが難しい。
 - ・ 興味関心がわからない単元の対応が課題である。
- やってみてよかったことの更なる改善案・課題となっていることの改善案
 - ・ 学部で共通理解を図っている。
 - ・ 一日の子供の活動を動画に収め、よかったところを本人に見せて、賞賛することで本人にやる気が起こった。



分科会Ⅱ（訪問教育学級生）記録抜粋

【 討議の柱① 授業実践の振り返りを授業改善に活かすための方法について 】

- 各学校やそれぞれの実践でやってみてよかったこと
 - ・ TT訪問を実施し、授業の様子等を共有し次回の授業を改善している。
 - ・ 複数訪問は難しいが、儀式や教育相談の日等、担任十人で訪問できている。その際に児童の様子、実態について話をしている。
 - ・ 子供の様子を録画し、その日のうちに共有する。
 - ・ 遊び、音楽等、Ⅲ課程が共通の内容、進め方で行う学習は毎時間の略案と振り返りシートで職員が共通理解している。毎時間の振り返りシートから次時への改善等を提案し、実践している。
- 各学校やそれぞれの実践で課題となっていること
 - ・ 感染症対策もあり、一人で在宅訪問をしている。
 - ・ ビデオ等を訪問担当者以外の職員に見てもらえない。
 - ・ 準備を含め、一人で映像を撮りながら授業をするのは難しい。
 - ・ 各教科（生活、理科、社会）等の評価が難しく、目標の設定も難しい。PDCAがうまく回っていない。
- やってみてよかったことの更なる改善点・課題となっていることの改善案
 - ・ 評価を共有するために、自立活動指導略案に直接簡単に記入して回覧するだけでも共有できるか？
 - ・ 学習内容の検討だけでなく、実際に行った授業を教師が集まって振り返り、次時への改善等をする場が設定でき、生かされていることが素晴らしいと感じました。

【 討議の柱② 訪問教育の授業の進め方（教科を意識した自立活動） 】

- 各学校やそれぞれの実践でやってみてよかったこと
 - ・ 授業の導入の工夫。（歌を歌う、流すなど）
 - ・ 実際に具体物にふれる。（触る、匂いを嗅ぐ）
 - ・ 個別の指導計画を立てるときに教科ごとに目標を設定する、教科を意識した言葉掛けをする。
- 各学校やそれぞれの実践で課題となっていること
 - ・ 情報共有の難しさ。
 - ・ コロナにより他学級の生徒の様子が分かりづらい。
 - ・ 評価をどのように指導に生かしていくのか。
- やってみてよかったことの更なる改善点・課題となっていることの改善案
 - ・ 個に応じた教材・教具の作り方が難しい（本当は一人一人に必要なのだろうけど）。
 - ・ 授業の動画をグループウェアに載せている。

